



言葉の力

名前

年 組 番

Q、「私たちが用いる言葉のどれをとってみても、単独にそれだけで美しいと決まっている言葉はない」とあるが、その理由が書かれている一文を二つ抜き出しなさい。

①それは、言葉というものの本質が、口先だけのもの、語彙だけのものではなくて、それを発している人間全体の世界をいやおうなしに背負ってしまうところにあるからである。

②人間全体が、ささやかな言葉の一つ一つに反映してしまうからである。

Q、「別の人がそれを用いたとき同じように美しいとはかぎらない。」とあるが、「それが指すものを本文から書き抜いて十三字で答えなさい。

ある人があるとき発した言葉

Q、「それは、言葉というものの本質が、口先だけのもの、語彙だけのものではなくて、それを発している人間全体の世界をいやおうなしに背負ってしまうところにあるからである。」とあるが、「それ」の指す内容を「こと」と続くように、本文から書き抜いて答えなさい。

ある人があるとき発した言葉がどんなに美しかったとしても、別の人がそれを用いたとき同じように美しいとはかぎらない(こと)

Q、「言葉というものの本質」とはどういうことか、次の中から正しいものを選びなさい。

A::単独でその価値が決まっている

I::正しい人が発すれば、いつでも同じように正しくなる

U::その人の世界は、ささいな言葉一つ一つの定義を背負っている

E::それを発する人間の美しさと正しさを反映する

E

Q、「ある人があるとき発した言葉がどんなに美しかったとしても、別の人がそれをも用いたとき同じように美しいとはかぎらない」とあるが、その理由を本文から十五字以上三十字未満で書き抜いて答えなさい。

人間全体が、ささやかな言葉の一つ一つに反映してしまうから

Q、「それを発している人間全体の世界をいやおうなしに背負ってしまうところにあるからである。」とあるが、「それ」が指しているものを本文から2字で書き抜いて答えなさい。

言葉

Q、「美しい言葉」「正しい言葉」について、筆者の主張と合っているものを次の中から選びなさい。

ア::その言葉自体に美しさと正しさがある。

イ::別の人が用いると、かならず同じ美しさにはならない。

ウ::発する人間の美しさと正しさを反映している。

エ::その言葉の本質が美しく正しいとはいえない。

ウ

Q、「実際はこれは桜の皮から取り出した色なのだった。」とあるが、「これ」が指す言葉を、本文から二字で書き抜いて答えなさい。

桜色

Q、「そのピンクは、淡いようできて、しかも燃えるような強さを内に秘め、はなやかでしかも深く落ち着いている色」とあるが、このような桜色を、本文では他に4つ、違う表現で表している。四通りの表現全てをそれぞれ本文から書き抜いて答えなさい。

・なんとも美しい桜色

・美しいピンクの色

・上気したような、えもいわれぬ色

・最上のピンクの色

Q、「そのピンクは、淡いようできて、しかも燃えるような強さを内に秘め、はなやかでしかも深く落ち着いている色」とあるが、このような色は「いつ」取り出すことができるか。本文から十字で書き抜いて答えなさい。

桜の花が咲く直前のころ

Q、「そのピンクは、淡いようできて、しかも燃えるような強さを内に秘め、はなやか
でしかも深く落ち着いている色」とあるが、このような色は「何から」取り出すこ
とができるか。本文から五字で書き抜いて答えなさい。

山の桜の皮

Q、「私はその話を聞いて、体が一瞬揺らぐような不思議な感じに襲われた。」とあ
るが、このときの筆者の気持ちとして最も正しいものを次の中から選びなさい。

ア：悲しみ

イ：恥ずかしさ

ウ：驚き

エ：あせり

ウ

Q、「私はその話を聞いて、体が一瞬揺らぐような不思議な感じに襲われた。」とあ
るが、その理由を説明したもので最も適切なものを次の中から選びなさい。

ア：最上のピンク色を取り出すためには妥協を許さない、志村さんの仕事に対する
熱意に圧倒されたから

イ：黒っぽいごつごつした桜の皮から、美しいピンク色を取り出すことができる、志村
さんの熟練した技術に驚かされたから

ウ：尖端の花びらだけでなく、木全体で最上のピンク色になろうとしている桜の木の
姿に圧倒されたから

エ：限られた視野の中で、桜の花びらに現れ出たピンクしか見えていなかった自分に
気づき、驚かされたから

ウ

Q、「考えてみればこれはまさにそのとおり」とあるが、「これ」の指す内容として正
しいものを次の中から選びなさい。

ア：「私」が桜の花びらからピンク色を取り出すと思ったこと

イ：ピンク色は桜の皮から取り出されること

ウ：美しいピンク色は一年中どの季節でもとれるわけではないこと

エ：花びらのピンクは、ほんの尖端だけ姿を出したものであること

エ

Q、「木全体の一刻も休むことない活動」とあるが、それは具体的にどのような活動を指しているか。本文の言葉を使って答えなさい。

木全体で最上のピンクの色になろうとすること

Q、「たまたま志村さんのような人がそれを樹木全身の色として見せてくれると、はつと驚く。」とあるが、「それ」の指す内容を、本文から十三字で書き抜いて答えなさい。

桜の花びらに現れ出たピンク

Q、「たまたま志村さんのような人がそれを樹木全身の色として見せてくれると、はつと驚く。」とあるが、「はつと驚く」様子を具体的に表現している部分を本文から書き抜いて二十字以上二十五字未満で答えなさい。

体が一瞬揺らぐような不思議な感じに襲われた。

Q、「このようにみてくれば、これは言葉の世界での出来事と同じことではないかという気がする。」とあるが、「言葉の世界での出来事」が指す内容を、本文の言葉を使って「こと」と続くように二十字以上三十字未満で答えなさい。

人間全体が、ささやかな言葉の一つ一つに反映してしまうこと

Q、「言葉の力」で筆者が最も伝えたいことを、次の中から選びなさい。

ア：同じ言葉でも、それを発した人によって「美しい言葉、正しい言葉」かどうかが変わってくる。

イ：最上のピンク色とは、桜の木全体の休むことない活動の精髓によるものである。

ウ：桜の木の「木全体」と「花びらの色」の関係は、「人間全体」と「発せられる言葉」の関係と同じである。

エ：言葉一つ一つには、それを発する人間全体が反映される。

オ：限られた視野では、物事のほんの尖端の姿しか見ることができない。